

## ● 病院の特色

1. 急性期後のリハビリテーションを中心に、地域の在宅医療を支援する機能を持った病院である。
2. 地域密着型の予防医学的な側面にも力を入れ、地域住民や学校、医師会との共同事業を展開している。

## ● 診療実績

## 1. 入院：患者数(人/年)

	疾患	患者数
1	神経系	28
2	耳鼻咽喉科系	0
3	呼吸器系	12
4	循環器系	3
5	消化器系	20
6	筋骨格系	68
7	皮膚皮下組織 腎尿路系、生殖器系	8
8	内分泌・栄養・代謝系	12
9	腎泌尿器系	2
10	婦人科系	0
11	血液・免疫その他	1
12	外傷・熱傷・中毒系	10
13	その他	11

延べ入院患者総数(人/年)： 内科系 4511, 外科系 3081 ; 計 7592

一日平均患者数 : 20.8

## 2. 外来：延べ外来患者総数(人/年)：

内科 7551, 外科 1997, リハビリ科 1070, 眼科 886, 皮膚科 540 ; 計 12044

一日平均患者数 : 49.6

## ● 各部門の実績

## 1. 臨床検査科

部門の構成人員：1名

報告者名：中山 弘美

## &lt;診療科の特色&gt;

1名の検査技師が常駐し検体検査、生理検査業務を行っている。

院内感染対策委員会の中心メンバーとして活動を行っている

ホームページ・広報委員会のメンバーとして活動を行っている。

<主たる業務の状況>

検体検査

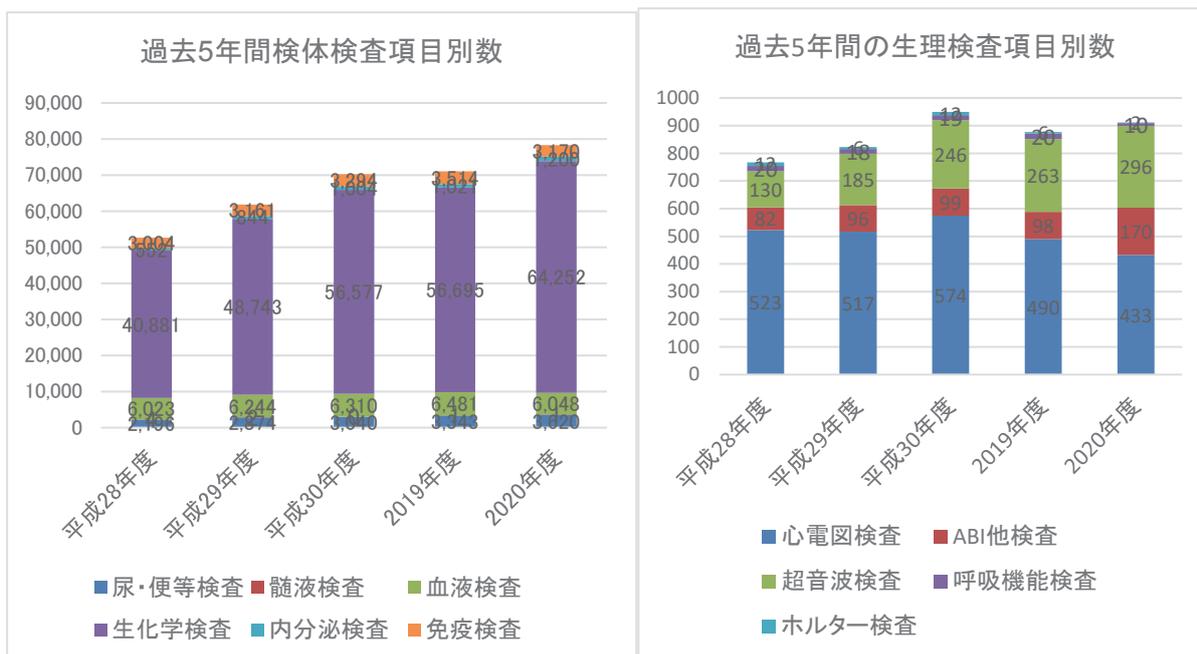
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
尿・便等検査	256	241	304	343	339	307	362	307	303	278	261	319	3,620
髄液検査	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
血液検査	481	467	565	607	566	487	558	484	419	462	457	495	6,048
生化学検査	4708	4508	5294	6513	6030	5394	5873	5409	4968	5034	4856	5,665	64,252
内分泌検査	90	85	127	135	124	90	98	91	112	76	70	102	1,200
免疫検査	262	239	291	292	272	225	265	251	226	249	283	315	3,170
合計	5,797	5,540	6,581	7,890	7,331	6,504	7,156	6,542	6,028	6,099	5,927	6,896	78,291

生理検査

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心電図検査	35	30	40	36	35	36	53	37	35	33	32	31	433
ABI検査	16	9	13	13	18	14	8	12	14	13	8	12	150
SAS	3	2	2	5	2	1	2	0	0	1	0	2	20
超音波検査	26	17	31	24	35	27	25	22	22	24	12	31	296
呼吸機能検査	0	0	1	2	0	0	1	3	1	0	1	1	10
ホルター検査	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	80	59	88	80	90	78	89	74	72	71	53	77	911

- ・平成30年12月に医療法等の一部改正により、医療機関が自ら行う検体検査の精度の確保に関する基準として必要になった標準作業書の作成、改訂を行った。
- ・血清アルカリフォスファターゼ(ALP)乳酸脱水素酵素(LD)測定方法変更:  
ALPとLDの測定法を一般社団法人日本臨床化学会が定めた測定法(JSCC法)から諸外国で広く用いられている国際臨床科学連合の測定法(IFCC法)に変更した。
- ・SARS-Co-2 PCR検査装置の導入(Smart Gene)
- ・外部精度管理として、各装置のメーカーが行う精度管理に参加。
- ・院内感染対策委員会としての活動:  
感染対策マニュアル改正、SARS-Co-2感染対策マニュアル作成、感染対策室だよりの発行。

<過去5年間の件数比較>



2. 薬剤科

部門の構成人員：1名

報告者名：工藤 美知

採用医薬品(令和3年3月末)

	内服薬	外用薬	注射薬	合計
採用医薬品数	174	57	103	334
後発採用医薬品数	75	22	26	123
後発医薬品比率(品目割合)	66.37%	66.67%	76.47%	68.33%
後発のある先発品	38	11	8	57

後発品比率

品目割合	68.33%
金額割合	54.32%
数量割合	77.17%

$$\text{後発品比率(\%)} = \frac{\text{後発品採用品目数}}{\text{後発品のある先発品目数} + \text{後発品採用品目数}} \times 100$$

<月次業務報告>

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R2平均
外来	処方箋枚数（院外）（枚）	662	610	661	783	723	699	726	773	690	685	633	703	696
	（院内）（枚）	13	5	11	5	7	5	16	13	16	6	5	8	9
	注射箋枚数（枚）	69	87	82	85	104	91	69	400	163	52	77	62	112
入院	処方箋枚数（枚）	293	285	311	291	244	264	225	169	176	231	240	227	246
	調剤数（剤）	5858	5326	5516	4953	4887	4724	4944	3638	5092	5106	5023	4091	4930
	注射箋枚数（枚）	143	110	230	298	237	236	213	90	152	177	99	113	175
	注射処方件数（件）	262	162	392	550	409	488	412	148	266	348	210	242	324
持参薬確認数（件）	23	15	23	19	21	12	23	14	14	21	16	19	18	
退院時薬剤情報管理指導（件）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
薬物血中濃度（請求件数）（件）	0	2	2	7	3	1	4	2	0	3	6	4	3	
薬物血中濃度（解析件数）（件）	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
プレアポイド報告（件）	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
医薬品安全性情報報告（件）	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

<平成 31 年度 金川病院健康教室> 新型コロナのため休止中

3. 放射線科

部門の構成人員：1名

報告者名：小倉 裕樹

<診療科の特色>

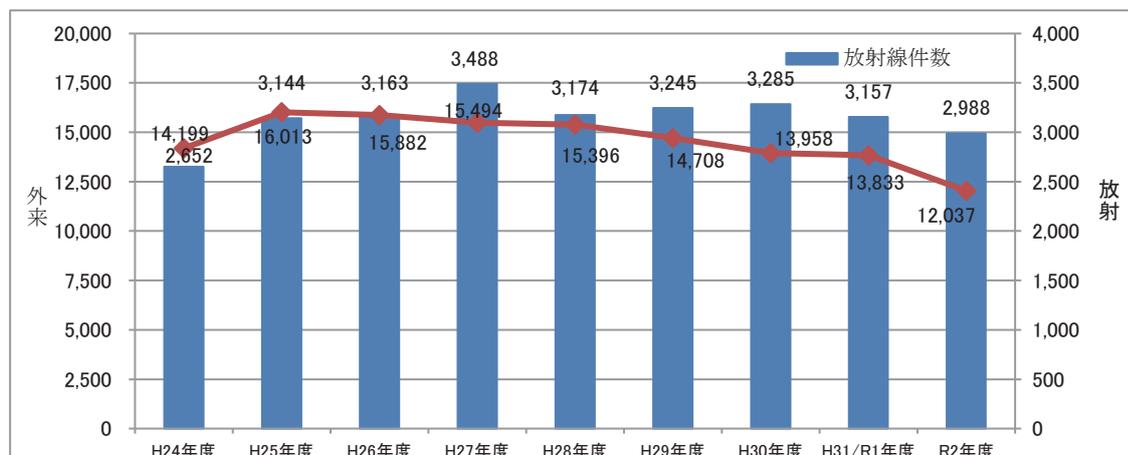
診療放射線技師 1名の体制。業務は一般撮影・透視撮影・CT撮影・骨塩定量測定などの放射線検査、岡山市健康診査の肺がん検診を実施しています。また岡山県肺がん精密検診機関でもありますので肺がん精密検診も行っています。撮影した画像は、岡山医療センターの放射線科医が遠隔画像診断を行います。御津・建部地区の開業医院様からの画像紹介の場合も、岡山医療センターの放射線科医が画像診断を行います。開業医院様からの画像紹介お待ちしております。これからも、地域の皆様のかかりつけ病院として、また地域医療の中心として皆様のお役に立てる病院をめざします。

<医療機器>

一般撮影	CR装置 (REGIUS)
骨塩定量	骨密度測定装置 (Dischroma Scan)
透視撮影	デジタルX線TVシステム (Raffine)
CT装置	MSCT (Activion16)

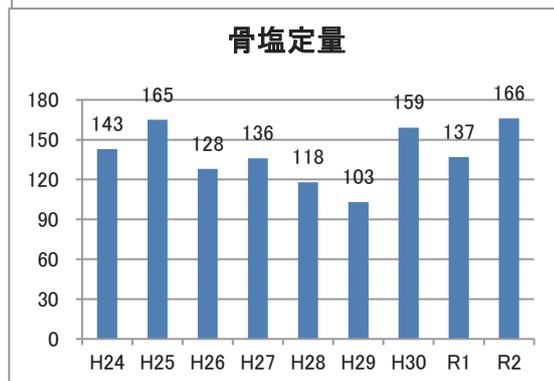
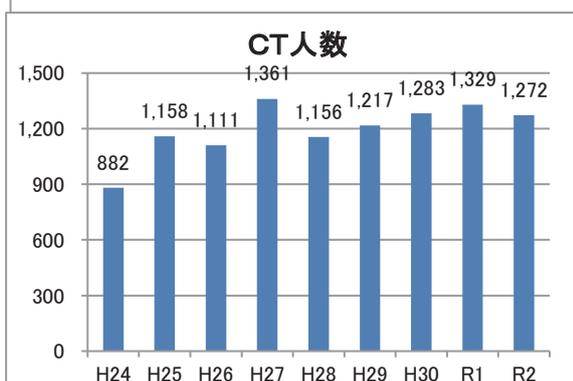
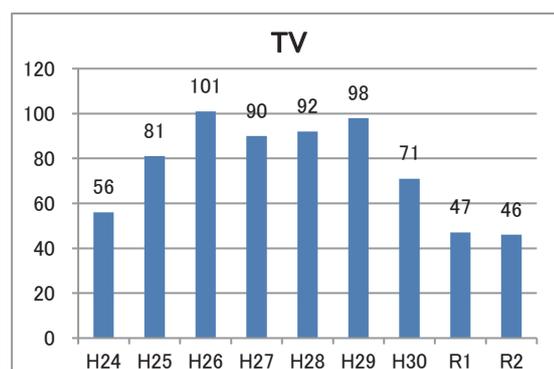
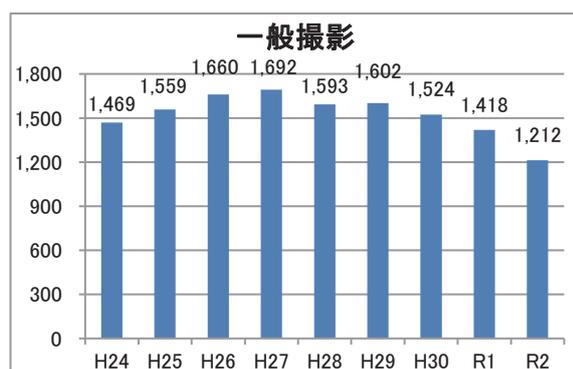
<診療実績>

1) 外来人数と放射線検査件数



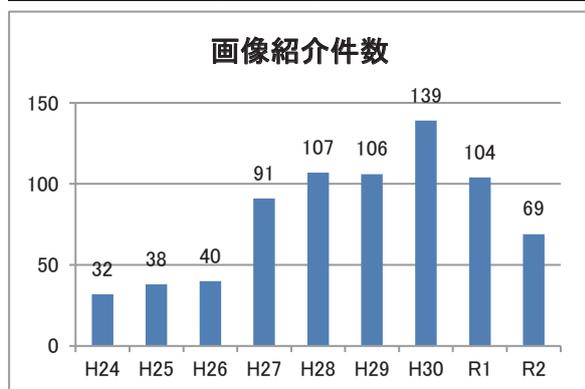
2) モダリティー別検査患者数

年度 検査別数	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
一般撮影	1,469	1,559	1,660	1,692	1,593	1,602	1,524	1,418	1,212
TV	56	81	101	90	92	98	71	47	46
CT件数	984	1,339	1,274	1,570	1,371	1,442	1,531	1,555	1,564
CT人数	882	1,158	1,111	1,361	1,156	1,217	1,283	1,329	1,272
骨塩定量	143	165	128	136	118	103	159	137	166
合計	2,550	2,963	3,000	3,279	2,959	3,020	3,037	2,931	2,696



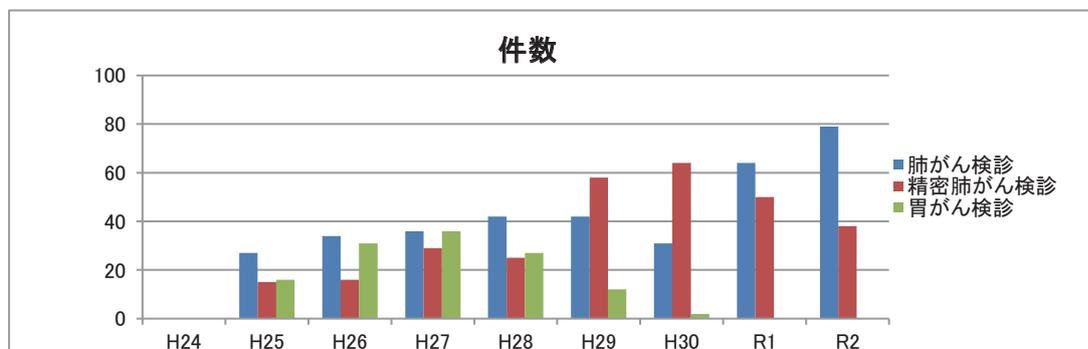
### 3)画像紹介件数

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
画像紹介件数	32	38	40	91	107	106	139	104	69



### 4)岡山市健康診断検査数

年度	H24 (開院)	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
検査別数									
肺がん検診		27	34	36	42	42	31	64	79
精密肺がん検診		15	16	29	25	58	64	50	38
胃がん検診		16	31	36	27	12	2		
計		58	81	101	94	112	97	114	117



### 4. リハビリテーション科

報告者名:古里 貴弘

部門の構成人数: リハ科医師 1 名、理学療法士 3 名(令和 2 年 2 月~2 名)、  
作業療法士 1 名、言語聴覚士 1 名

<令和 2 年度を振り返って>

- ・地域包括ケア病棟維持のため必要単位数(1 日平均 2 単位以上提供)の維持に努めた。出来高算定向上の為、外来リハビリを積極的に実施した。
- ・入院患者様の在宅復帰を目標に、カンファレンスの充実や家屋訪問などを多職種と連携して行い、退院支援を充実させた。
- ・近隣施設や地域との交流については、新型コロナウイルスの影響により中止しており、来年度以降の再開を検討している。

<業務報告>

1) 理学療法・作業療法実績(入院)

	理学療法				作業療法				合計
	運動器	脳血管	廃用	呼吸	運動器	脳血管	廃用	呼吸	
4月	532	246	166	66	45	130	88	0	1273
5月	420	314	108	88	116	113	56	16	1231
6月	531	183	135	133	157	66	17	36	1258
7月	559	74	103	84	100	10	34	12	976
8月	487	136	147	128	62	57	49	3	1069
9月	391	210	143	106	82	58	76	1	1067
10月	320	146	301	23	105	99	90	0	1084
11月	233	248	179	43	58	80	16	22	879
12月	382	269	10	54	101	82	2	48	948
1月	505	131	185	44	105	35	48	14	1067
2月	356	74	87	62	107	52	72	28	838
3月	383	79	104	10	179	60	64	5	884
合計	5099	2110	1668	841	1217	842	612	185	12574

2) 理学療法・作業療法実績(外来)

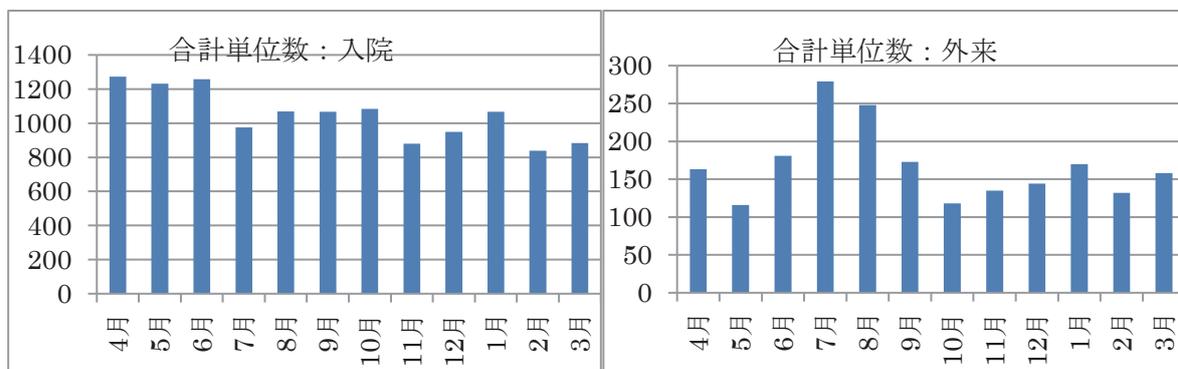
	理学療法			作業療法			合計
	運動器	脳血管	呼吸	運動器	脳血管	呼吸	
4月	63	0	0	84	16	0	163
5月	66	2	0	39	9	0	116
6月	71	6	0	86	18	0	181
7月	89	16	0	152	22	0	279
8月	70	16	0	136	26	0	248
9月	65	6	0	92	10	0	173
10月	64	0	0	54	0	0	118
11月	75	0	0	60	0	0	135
12月	26	0	0	118	0	0	144
1月	42	0	0	128	0	0	170
2月	49	0	0	81	2	0	132
3月	81	0	0	77	0	0	158
合計	761	46	0	1107	103	0	2017

### 3) 言語療法実績(入院・外来)

	脳血管リハ(単位数)			呼吸リハ(単位数)			廃用リハ(単位数)			摂食機能療法(件数)			心理・知能検査(件数)		
	入院	外来	計	入院	外来	計	入院	外来	計	入院	外来	計	入院	外来	計
4月	106	0	106	18	0	18	0	0	0	17	1	18	21	4	25
5月	85	0	85	2	0	2	14	0	14	16	0	16	25	4	29
6月	109	0	109	5	0	5	24	0	24	29	0	29	18	6	24
7月	74	0	74	7	0	7	11	0	11	23	0	23	12	2	14
8月	53	0	53	27	0	27	57	0	57	8	0	8	18	5	23
9月	63	0	63	31	0	31	63	0	63	0	0	0	11	2	13
10月	53	0	53	10	0	10	70	0	70	0	0	0	18	3	21
11月	67	0	67	34	0	34	42	0	42	0	0	0	13	3	16
12月	77	0	77	30	0	30	5	0	5	0	0	0	16	5	21
1月	45	0	45	18	0	18	42	0	42	0	0	0	14	2	16
2月	54	0	54	34	0	34	39	0	39	0	0	0	11	5	16
3月	40	0	40	10	0	10	32	0	32	0	0	0	15	3	18
合計	826	0	826	226	0	226	399	0	399	93	1	94	192	44	236

### 4) 退院前家屋訪問

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	0	2	0	1	0	1	1	2	0	0	0	0



### 5. 栄養管理室

部門の構成人数: 1名(管理栄養士)

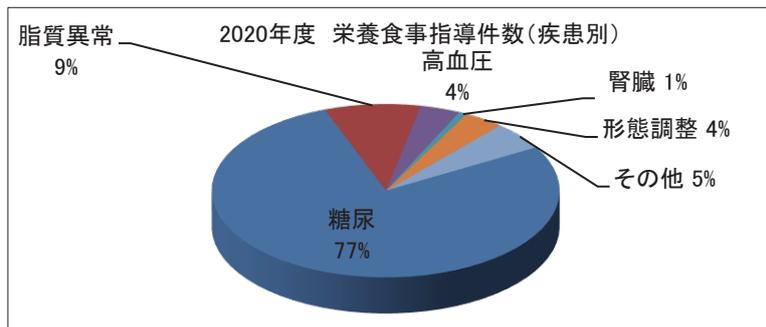
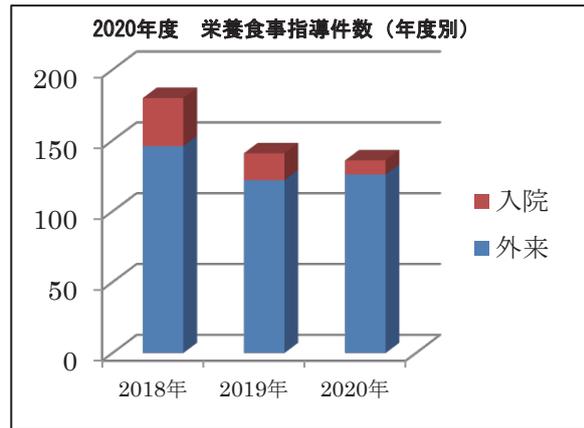
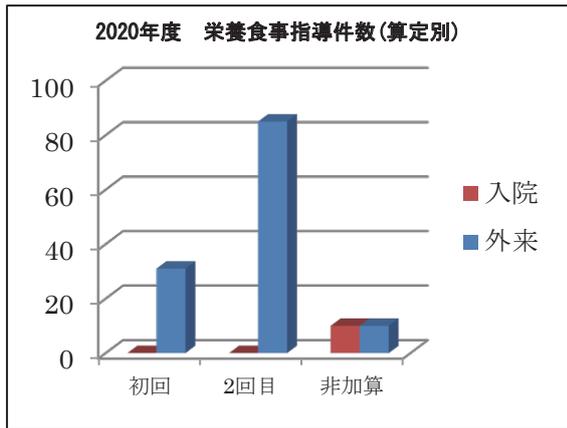
報告者名: 石塚 天馬

<活動状況>

#### 1) 栄養食事指導

入院・外来患者に対して、医師の指示に従って適切な栄養食事指導を行っている。

入院時の指導に関しては包括ケア病棟のため非加算となる。



## 2) 給食管理

【一般食】並菜、軟菜等

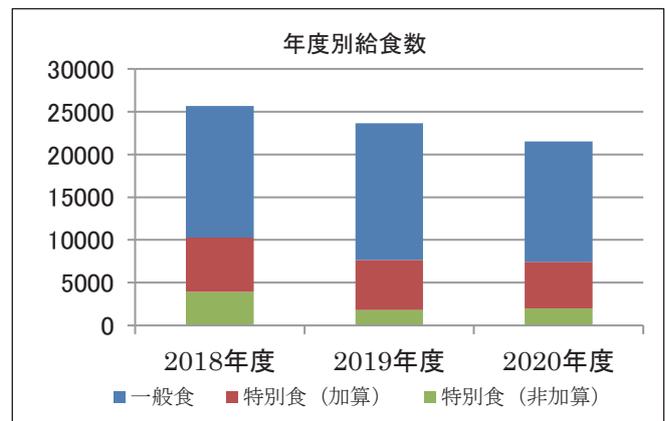
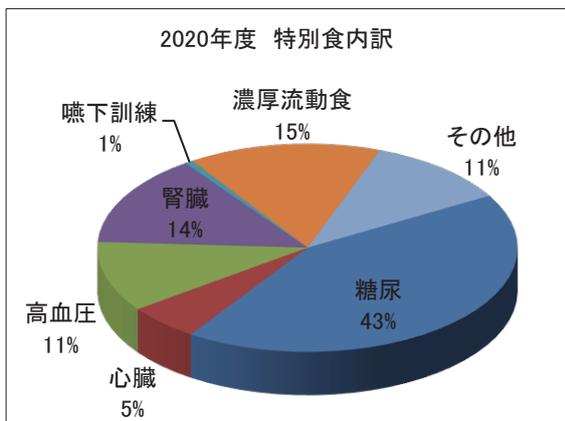
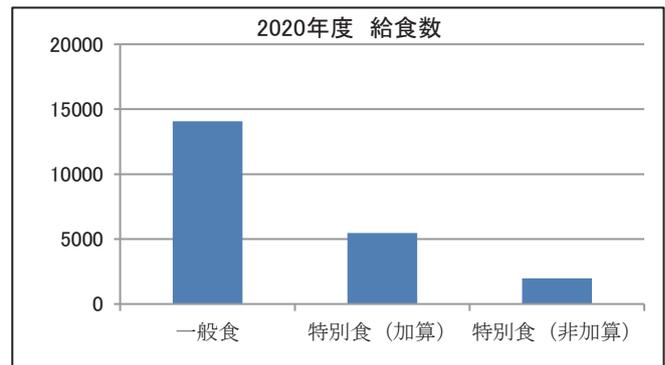
【特別食(加算)】

糖尿食、心臓食、腎臓食等

【特別食(非加算)】

高血圧食、嚥下訓練食等

咀嚼、嚥下状態に合わせて形態調整の対応を実施



## 3) 行事食の提供

入院中の食事を楽しみにしていただけよう、季節、行事に合わせた食事を提供している。



ちらし寿司(ひなまつり)



七夕そうめん(七夕)



さつまいもご飯(秋分の日)



スクランブルエッグオムライス(クリスマス)

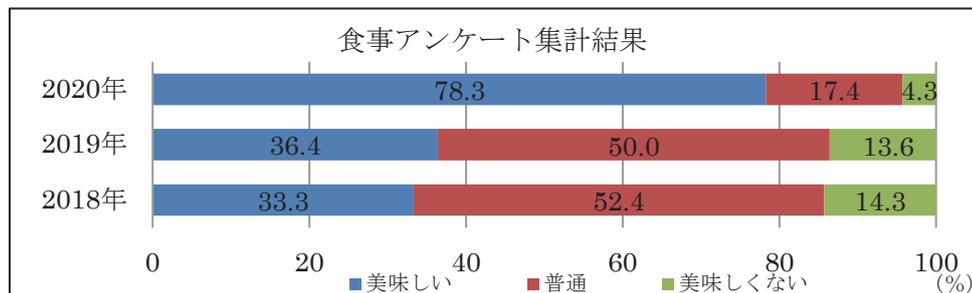
#### 4) チーム活動、ラウンド

各種チーム医療へ参加し、管理栄養士の専門性を活かして患者個々の病態に適した 栄養療法を提案できるよう努めている。

ミールラウンド(毎昼食時)、各カンファレンス、ラウンド(毎週)

#### 5) 嗜好調査

年 2 回、入院患者から食事に対する評価をいただき、献立作成に役立てるために嗜好調査を行っている。調査の結果を参考により良い病院食の提供に努めている。



#### <研究業績>

テレビ、ラジオ等出演

##### 1) 高齢者の家庭でできる食べやすい食事の工夫

石塚天馬

oni ビジョン「テレビ de 公民館」, 2020 年 9 月 7 日, 岡山

#### 6. MSW

部門の構成人数: MSW 1 名

報告者: 今川 遥香

#### <部門の特色>

##### 1) 退院調整

患者様、ご家族との面談の中で退院後の生活において心配な点についてお話を伺います。必要に応じて中間カンファレンスを行ない、目標やゴール設定をおこない患者様、ご家族のみならず地域スタッフや院内スタッフがー丸となってより良い支援ができるよう計画します。また退院前カン

ファレンスの実施をおこない、退院後に関わる地域スタッフとの情報共有をおこないます。在宅復帰が困難な患者様については、施設入所の調整も行っています。患者様、ご家族が安心して退院できるよう、適宜、話し合いの場を設定しながら調整をすすめています。

## 2) 家屋訪問

リハビリが進み、退院を視野に入れて考える時期になれば患者様、リハビリスタッフと共に家屋訪問に伺っています。実際に家屋の状況を確認し、退院後の生活で困る面がないかどうかチェックを行います。改善すべき点は福祉用具業者に改修を依頼したり、新たな福祉用具の手配を行います。

## 3) 地域連携

棟続きに北地域包括支援センター御津分室があり、随時連絡がとり合える状況にあります。支援が必要な患者様の相談を受けたり、介護保険をこれから受けられる方の相談もしています。

御津地区のケアマネージャーとは、『みつ地域退院支援ルール』に基づき連携強化に取り組んでおり患者様に対して、行き届いた支援ができるよう努めています。

みつ訪問看護ステーションは、御津地域全体を網羅するステーションであり、密に連携をとっています。既に訪問看護を受けられている患者様に関する問い合わせや、介入が望ましい際の新規依頼も行っています。また、MSWは医師と訪問看護師・ケアマネージャーを繋ぐ役割も担っています。

### MSW業務統計

(外来)

(援助内容)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心理社会的問題	9	8	16	8	16	23	11	25	17	15	14	17	179
受診受療問題	52	46	39	49	90	48	75	60	54	59	41	72	685
経済的問題	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	4
社会復帰支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
個別外援助	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
合計	61	54	55	59	106	71	86	86	72	74	56	90	870

(入院)

(援助内容)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心理社会的問題	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退院支援	114	110	114	135	127	148	100	97	97	83	119	113	1357
受診受療問題	4	0	2	5	2	1	4	0	0	0	0	0	18
経済的問題	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会復帰支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
個別外援助	4	2	6	5	3	5	5	4	5	0	4	6	49
合計	122	112	122	145	132	154	109	101	102	83	123	119	1424

## 7. 医局

部門の構成人数：医師 3 名（内科 2 名、外科 1 名）

### <研究業績>

#### 1. 論文発表

1) 大森信彦「認知症の方を優しく支えられる地元高校生を育てよう！」

‘地域包括ケア みつネット’の取り組み：『注文を間違えるレストラン』企画の紹介.

岡山県医師会報第 1536 号 p20-21

R2 年 10 月 25 日発行

#### 2. 学会、研究会

1) 『主役はあなた！協働でつくる岡山市の未来』（演者）

大森信彦

令和 2 年度市民協働フォーラム(第 2 回). R2.11.23(岡山国際交流センター)

#### 3. その他

(大森信彦)

岡山県立御津高等学校運営協議会：R2.7.16、R2.10.26、R3.2.2(岡山県立岡山御津高校)

御津医師会理事会：各月第3水曜(御津医師会事務局)

岡山県地域包括ケアシステム学会理事会：R3.1.7(Web)

日本医療マネジメント学会岡山県支部役員会：R2.10.3(Web)

大分大学医学部後援会理事会：R3.3.26(Web)

## 1. 病棟の具体的な目標と評価

### 1) 質の高い看護を提供する

今年度修正した業務フローに対してスタッフにアンケート調査を実施し、11名中10名より修正後の業務フローでスムーズに勤務できているとの回答を得た。しかし情報収集の時間不足の課題が抽出されたため今後は申し送り時間の短縮や廃止に取り組む。褥瘡に関して褥瘡監査表を使用して毎月監査を実施し、皮膚統合性リスク状態の計画立案と日々の看護記録の記載はできている。今年度の新規褥瘡発生件数は11件、持ち込み褥瘡件数は17件であった。新規発生に関しては、前年度15件であり、ADL低下及び栄養状態不良の患者が多い中で、皮膚の脆弱性に対して日々の観察や処置を継続した結果、減少している。持ち込み褥瘡に関しても悪化させた事例はなかった。

### 2) 病院の運営・経営に参画する

平均在院日数32.6日、平均病床利用率69.3%である。在宅復帰率70%以上は維持できている。退院時共同指導料は、8月から10月の直近3カ月の合計件数が5件であり、算定要件の6件に満たず一度算定を落とした。自宅での看取りを望む事例に対して、かかりつけ医が当院であったため、退院時共同指導料の条件が整わず算定出来なかったが、退院時カンファレンスを通して家族の要望に沿える関わりができ、看取りまで家族に寄り添うことができた。認知症ケア加算について、スタッフの知識の統一を図るため年度を通して3回勉強会を実施し、また令和3年1月から認知症ケア加算チェック表を新たに作成し記載例も提示し活用した。その結果認知症ケア加算の算定漏れはなかった。

### 3) 安全な医療、看護を提供する

インシデントは215件である。そのうち0レベルインシデントは32件で、前年度の29件とほぼ同数であった。前年度多かった着床及び離床センサー関連の0レベルインシデントは減少し、今年度は処方箋の単位数間違いや処方漏れなどを発見することができ未然に防ぐことができています。薬剤に関する1レベル以上のインシデントは74件であり6Rの徹底と内服の確実投与が課題である。感染防止に関しては、手指消毒剤の個人持ちを継続したが、年間目標の10回/日に到達できなかった。新型コロナウイルス感染症対策として、当院の運用システムの話し合いは実施できているが、マニュアルの完成には至っていない。

### 4) 専門職として学び続ける

今年度の研修参加(新人・ラダー別・実施指導者)は20件であった。そのうち伝達講習を実施できたのは全体の8件(40%)であり、目標達成に至らなかった。看護研究は、前年度の研究を踏まえたユマニチュードの実践状況の把握について取り組んだ。結果として、ユマニチュードの理解に努める機会を繰り返し持つことの重要性が得られた。

### 5) 看護の先輩として学生指導に携わる

学生が、退院後の生活をイメージしながら患者及び家族の目標や、住宅環境、内服管理の方法、入院前の生活状況などについて具体的に情報がとれ、日々の看護援助に活かして介入できるように指導を行った。1回/週の病棟カンファレンスに参加をし、多職種連携や退院支援についての学びが深まるように支援した。実習記録確認日以外でも、進捗状況を確認し教官と連携を図り指導に活かした。学生の実習評価のうち、適切な指導を受けることができたかの評価は4.9と高かった。

6)活気ある職場を目指す

時間外勤務時間の月平均は 16.5 時間で前年度より増加している。時間外勤務時間内容としては、看護記録に時間を要していた。しかし忙しい業務の中でも、チームを越えての残務調整などコミュニケーションは取れており働きやすい雰囲気はできている。

2. 病床運営状況

表 1 令和 2 年度 病床運営状況

収容可能 病床数(床)	診療科名	月平均		平均在院 患者数(人)	平均在院 日数(日)
		新入院患者数(人)	退院患者数(人)		
30	内科 外科	19.2	19.5	20.8	32.6

病床 利用率(%)	病床 稼働率(%)	有料個室		死亡者数 (人)	地域包括ケア病床 在宅復帰率(%)
		病床数(床)	稼働率(%)		
69.3	71.5	8	72.4	13	83.7

3. 看護体制

表 2 令和 2 年度 看護体制 (令和 2 年 4 月 1 日現在)

配置人数(人)	看護方式	夜勤体制(準:深)
21	固定チームナーシング	2:2

4. 看護統計

1) 重症度、医療・看護必要度

表 3 令和 2 年度 重症度、医療・看護必要度 I

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
基準を満たす 患者の割合(%)	8.6	12.3	23.1	26.6	24.4	27.3	20.0	10.7	25.2	29.9	43.6	27.5	23.3

2) 部署データ

表 4 令和 2 年度 退院時共同指導料算定数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
退院時共同指導料 2 算定数(回)	0	0	3	3	2	2	1	4	1	3	3	2

表 5 令和 2 年度 認知症ケア加算算定患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
認知症ケア加算算定 1日平均患者数(人)	6.6	6.6	4.9	7.2	5.8	6.3	2.9	2.9	3	2.3	6.3	7.9